

『古代アメリカ』8, 2005, pp.71-74

<書評>

Domingo Francisco de San Antón Muñón Chimalpain Cuauhtlehuauitzin, *Primera, segunda, cuarta, quinta y sexta relaciones de las Diferentes Histories Originales*. Edición de Josefina García Quintana, Silvia Limón, Miguel Pastrana y Víctor Manuel Castillo Farreras, México, UNAM-Instituto de Investigaciones Históricas (Serie Cultura Náhuatl: Fuentes 11) , 2003, 1+167p. \$215.00

Domingo Francisco de San Antón Muñón Chimalpain Cuauhtlehuauitzin, *Séptima relación de las Diferentes Histories Originales*. Edición de Josefina García Quintana, México, UNAM-Instituto de Investigaciones Históricas (Serie Cultura Náhuatl: Fuentes 12) , 2003, xcvi+335 p. \$305.00

井上幸孝 (立命館大学言語教育センター)

1. 著者チマルパイン

ドミンゴ・フランシスコ・デ・サン・アントン・ムニオン・チマルパイン・クアウトレワニツイン¹⁾ (以下、チマルパインと略記) は、17世紀前半に主にナワトル語で記録文書を書き残したメキシコ中央部の先住民歴史家である。彼は、1579年、チャルコ地方で先住民貴族家系の傍系に生まれ、15才で副王都メキシコ市に移り住んだ。同市のサン・アントニオ・アバド教会で人生の大半を過ごし、17世紀半ばに死去した²⁾。『歴史報告書集 *Diferentes historias originales*』³⁾や『日記 *Diario*』といった記録文書を執筆したほか、サアグン『日々の実践 *Exercicio quotidiano*』やテソソモク『クロニカ・メシカヨトル *Crónica mexicáyotl*』の写本作成者としても知られている。

一般にチマルパインはチャルコの記録者と呼ばれるが、メキシコ盆地南部のチャルコ地方の歴史のみを記録したわけではない⁴⁾。また、常にチャルコ地方を代表する視点で歴史を語っているわけでもない。ある時には先住民貴族層全体を代表する立場で、さらに別の場面ではキリスト教である植民地時代のインディオとしての立場で、チャルコ以外の地域の歴史も記述した [Inoue 2001: 51-53; 井上 2003: 61-63]⁵⁾。

2. 『第一・第二・第四・第五・第六報告書』と『第七報告書』

今回、出版された2冊は、チマルパインの『歴史報告書集』を構成する複数の報告書の原文およびそのスペイン語訳である。『歴史報告書集』は複数の作品や断片を集めたもので、その原稿はフランス国立図書館に所蔵されている⁶⁾。その中には「第一報告書」から「第八報告書」と名付けられ

た 8 編の報告書と、「クルワカン市創設に関する簡潔な報告」が含まれる。これら計 9 編の文書の大半は、主に先スペイン期の歴史を扱っており、サアグンの『ヌエバ・エスパーニャ総覧 *Historia general de las cosas de Nueva España*』、ドウランの『ヌエバ・エスパーニャ誌 *Historia de las Indias de Nueva España e islas de Tierra Firme*』、テソソモクの『クロニカ・メシカヨトル』および『クロニカ・メヒカーナ *Crónica mexicana*』などと並んで後古典期メキシコ中央部の歴史を研究する上で欠かせない重要な情報源である。

次に、刊行された 2 冊の内容を順に追ってみたい。『第一・第二・第四・第五・第六報告書』は 4 名の研究者（いずれもメキシコ国立自治大学に所属する研究者）が校閲・スペイン語訳を担当している。序はこの巻に収録された各報告書の概要を非常に簡潔に述べたものである。ここに集められた 5 編の報告書はいずれも分量的に短いもので、それぞれ以下の内容を扱っている。

まず、「第一報告書」は、キリスト教の神についての議論と聖書に基づいた天地創造の物語が主な内容で、チマルパインの歴史記述の枠組を知る上で重要な部分である。次に、「第二報告書」は、「第一報告書」の続きと考えられる内容で、紀元前 3 年から紀元 50 年までを扱っている。この報告書の大部分はイエス・キリストの生涯に関する記述で、この部分のオリジナルはスペイン語とナワトル語訳の両方で書かれている。その後、テオチチメカ人のアストラン出発についての短い記述があり、最後は世界の四大地方（ヨーロッパ、アジア、アフリカ、新世界）の概要⁷⁾が記されている。続く「第四報告書」は西暦 50 年から記述が始まり、「第二報告書」の続きに相当する年代を扱っている⁸⁾。古代チメカ人の起源地（アストラン）出発から、1241 年にトトリンパネカ人のチャルコ定住までが記述されている。「第五報告書」は 1269 年から 1334 年の出来事を記録したもので、本書収録の 5 つの報告書の中では最も分量の多い報告書である。この報告書は、著者の出身地であるチャルコ地方の出来事を主に扱っている。「第六報告書」は、1261 年から 1612 年を扱ったもので、おそらくは何らかの史料から書き留めたメモのような性質の文書である。

もう 1 冊の『第七報告書』は、ホセフィーナ・ガルシーアが校閲・翻訳を担当している。序では、ガルシーアがこれまでの翻訳の問題点を指摘し、「第七報告書」の内容に関する簡潔な考察を行っている。「第七報告書」の本編では、冒頭で、チャルコ地方への最初の人々の到着および聖書に基づいたバベルの塔の話が語られる。その後、1272 年以降のメキシコ中央部の歴史が記述される。チマルパインは、1519 年のコルテス到来以後についても記録しており、この報告書全体の半分弱をスペイン人到来から 1591 年までの記述に割いている。また、巻末には、補遺としてチマルパインの手稿 5 葉のファクシミリ、さらには「第七報告書」と他のチマルパインの報告書の対照表が収められている。

これら 2 冊はいずれも、見開き左側の頁にナワトル語原文、右側の頁に対訳のスペイン語が印刷されている。左頁のナワトル語原文には手稿からの転記に際しての注、右頁のスペイン語訳文には原文の解釈に関わる注が、脚注として主に付されている。また、2 冊ともに、巻末には詳細な索引、および参考文献一覧が収められている。

3. 新版の意義

チマルパインの作品は長らく未刊であった。19 世紀末から 20 世紀半ばにかけてようやく様々な

形で出版され、仏訳、ファクシミリ版、独語対訳などが出版された。中でも、1965年にメキシコで出版されたレンドンによる『歴史報告書集』のスペイン語訳は広く普及し、最近まで多くの研究者によって利用されてきた。しかし、この版にはナワトル原文が収められていない上、各報告書の区分に問題があることや誤訳が多く見られることが指摘されている [Chimalpain 1997: vi, xxi]。

その後、メキシコ国立自治大学 (UNAM) は、『歴史報告書集』に含まれる各編の公刊を進めてきた。1983年にはロメロ・ガルバンが「第八報告書」、1991年と1997年にはカスティージョ・フェレーラスが「クルワカン市創設に関する簡潔な報告」と「第三報告書」を、ナワトル語原文と新たなスペイン語訳の対訳版として出版した。これらの翻訳・出版作業の背景には、1986年から活動を始めた同大学歴史研究所の「ナワトル語テキスト研究翻訳ワーキンググループ (Taller de Estudio y Traducción de Textos Nahuas)」の地道な作業があった。

他方、メキシコの国立人類学歴史学研究所 (INAH) でも、原文とスペイン語の対訳版の出版準備が進められ、テーナの校訂・翻訳によって、1998年に『歴史報告書集』、2001年に『日記』がそれぞれ刊行された。テーナ版は、一般読者のための読みやすさを心がけた平易なスペイン語（それは時に原文への忠実さと相反することにもなる）で訳されている。それゆえ、細かな点を確認するには、ナワトル語原文を読まなければ解決しない箇所が散見される⁹⁾。

以上のように、今回の2冊は、数年前に出版されたテーナ版と同じ部分の、異なる編訳者による新版ということになる。これら新版刊行の意義はどこにあるのだろうか。まず、今回の出版によって、UNAMによる『歴史報告書集』の対訳出版作業が完成したことになる。これは上述の通り、1980年代から続く長期的な作業の成果である。そして、何よりも重要なことは、UNAM版がチマルパインを分析対象あるいは歴史資料として扱う研究者向けの版であるという点であろう。ここで紹介した2冊を上述のテーナ版と比較すれば、このことがよくわかる。ナワトル語原文およびスペイン語訳文いずれに添えられた注も、テーナ版と比べて格段に多い。また、スペイン語訳の文中には、ナワトル語の専門用語と、チマルパインがナワトル語原文で使用しているスペイン語からの借用語がイタリック体で示されている。このことは、新版の訳文の読みづらさにもつながっているが、裏を返せば、読みやすさよりも正確な解釈や詳細な注釈を重視していることを示している。現代の研究者が、征服後にアルファベットを用いて書かれた記録文書から後古典期研究のためのデータを引用する場合、ナワトル語原文を参照するのが最善であろう。しかし、仮にスペイン語訳を利用するのであれば、誤訳の可能性がなるべく低く、複数の解釈が考えられる部分にはそのことを少しでも多く注記しているテキストを用いる必要があることは言うまでもない。今回の新版は、そうした利用者（研究者）にとって必携となるであろう。今後は、『日記』に関しても同様の版の刊行が待たれる。

註

- 1) この長い名がチマルパインの自称である。サン・アントンはサン・アントニオ・アバドという教会の名称、ムニョンは同教会のパトロン¹⁰⁾の姓、チマルパインとクアウトレワニツィンは征服前の先祖に当たる先住民貴族の名前から取ったもの。なお、チマルパインの名を表記する際、研究者によって異なる表記 (Chimalpahin, Chimalpáhin, Chimalpain) が用いられている。
- 2) 没年は1660年というボバンの説が一般に受け入れられているが、これを裏付ける史料は見つかっていない。
- 3) *Diferentes historias originales* (原稿はパリに保存されており、フランス語の *Différentes Histoires Originales* の名でも呼ばれる) というタイトルは、18世紀前半に原稿を所有していたボトゥリ

- ーニが彼のコレクションのカタログで言及している名称(“Diferentes historias originales en lengua *nahuatl* y papel europeo...”) に由来する [Boturini Benaduci 1986: 119]。
- 4) 例えば、『歴史報告書集』に収められた「第三報告書」のかなりの部分はメシーカ人の歴史を扱っている。
 - 5) チマルパインの生涯と作品および彼の歴史観を簡潔かつ的確にまとめたものとして、ロメロ・ガルバンの研究 [Romero Galván 2003] があるので参照されたい。
 - 6) Bibliothèque nationale de France, Manuscrit Mexicain No. 74.
 - 7) この部分はエンリコ・マルティネスの『天文学およびヌエバ・エスパーニャの自然誌 *Reportorio de tiempos y historia natural desta Nueva España*』のほぼ逐語的なナワトル語訳である [Inoue 2001: 50]。
 - 8) ただし、「第四報告書」を「第二報告書」の続きと見なすことに否定的な見解もある [Chimalpain 1991: xxxvii]。
 - 9) とはいえ、チマルパインの主要二著作が「シエン・デ・メヒコ」(メキシコを知るための名著百選) というシリーズの一環として刊行され、一般読者の目に触れることになったという意義は極めて大きい。同シリーズにはサアグンやドゥランといったスペイン人記録者が書き残した史料は収められているものの、テソソモクやイシュトリルシヨチトルの著作はこのシリーズではまだ刊行されていない。

参考文献

Boturini Benaduci, Lorenzo

1986 *Idea de una nueva historia general de la América Septentrional*. Ed. de Miguel León-Portilla, México, Porrúa (Col. Sepan cuantos..., 278), 2ª ed.

Chimalpain(Chimalpahin, Chimalpáhin) Cuauhtlehuauitzin, Domingo Francisco de San Antón Muñón,

1965 *Relaciones originales de Chalco Amaquemecan*. Ed. de Silvia Rendón, México. FCE.

1983 *Octava relación*. Ed. de José Rubén Romero Galván, UNAM-IIIH.

1991 *Memorial breve acerca de la fundación de la ciudad de Culhuacan*. Ed. de Víctor Manuel Castillo Farreras, UNAM-IIIH.

1997 *Primer amoxtili libro: 3a relación de las Diferentes Histoires Originales*. Ed. de Víctor Manuel Castillo Farreras, UNAM-IIIH.

1998 *Las ocho relaciones y el Memorial de Colhuacan*. Ed. de Rafael Tena, México, CONACULTA (Cien de México), 2 vols.

2001 *Diario*. Ed. de Rafael Tena, México, CONACULTA (Cien de México).

Inoue, Yukitaka

2001 Visión sobre la historia de un indígena del siglo XVII novohispano: las *Diferentes historias originales* de Chimalpahin, *Cuadernos CANELA* 13: 43-54.

井上 幸孝

2003 「チマルパインの『日記』」 『神戸市外国語大学研究科論集』 6: 53-71.

Romero Galván, José Rubén

2003 Chimalpain Cuauhtlehuauitzin, en José Rubén Romero Galván (coord.), *Historiografía mexicana. Vol. I: Historiografía novohispana de tradición indígena*. México, UNAM-IIIH, pp. 331-350.